

本連載では、2010年度の「地域のたから」探検隊!!に引き続き、文化力によって「地域の誇り」を復活させようという取り組みを紹介してまいります。記念すべき第1号は、千葉県浦安市のウラヤスフェスティバルの事例を取り上げます。

## 文化の力は地域を繋ぐ ～初年度18万人来場のフェスティバル～ 『ウラヤスフェスティバル』

浦安は、埋め立てによって市域が4倍になった典型的なベッドタウンであり、旧来から住宅地“元町”と高度成長期の住宅開発地“中町”、近年の新興住宅街“新町”にくっきりと地域が分かれ、それぞれの住民間に相互交流はほとんどありませんでした。

さらなる人口流入の受け皿になる土地がない以上、住みたいと思える魅力を高め、次第に高齢化する住民の年齢層を若返らさねばこのまちは衰退してしまう。さらに、この浦安を誇りに思い、日本一の憧れられるまちにするためには、地域を横断する新しい文化を創らなくてはならない。こうした思いに駆り立てられ、浦安JCのメンバーが中心に幅広い主体に参画を呼びかけ、知恵を絞った結果たどりついたのが「日本一の祭をしよう」という構想でした。

調整や住民説明を繰り返し、やっとの思いで昨年9月に第1回目のウラヤスフェスティバルを開催。18万人もの人々が市

内外から押し寄せ、予想をはるかに上回る大成功に終わりました。当日は多くの浦安の子どもたちが親子で準備した金魚ねぶたを披露したほか、全国から弘前ねぶたやエイサーなど特色ある山車や踊りが集結し、各地から新しい住民が集まる浦安らしいお祭りとなりました。何よりも祭は、3つに分断された住民が一つの地域文化を共有し、まちの可能性の高さを見つめ直すきっかけをもたらしました。

まちづくりの手段としては、得てして祭のような非日常の文化が注目されますが、地域を元気にする源はむしろ日常の文化力です。浦安は、東京ディズニーリゾートによって全国的に知名度が高く、宿泊・交通インフラが整備されています。この浦安ならではの資源を存分に活用するためには、海外にも強力にアピールすることのできる「祭」というコンテンツを通して、浦安をふるさととして愛する心、つまり日常の文化力を高める必要があったのです。

かつては漁業、鉄鋼業で栄えた浦安市も現在では観光を除いて主要な産業はありません。このため、地域経済をがむしゃらに盛り上げようというリキみに支配されることなく、人々の生活ステージとしての地域の魅力向上を目指した取り組みだったからこそ、市民の郷土愛に火をつけ、人口をも上回る18万人の集客に繋がったのです。将来的には、東京ディズニーリゾートに来場されたお客さんを少しでも浦安市内に呼び込めるよう魅力を高めたいと、構想もふくらんでいます。

人々の意識変革に注目した浦安の取り組みには、大きなヒントが隠されています。文化の力をもって、地域に誇りを復活させることこそが明るい豊かな地域を実現し、ひいては経済力をも高めていくのです。

一年を通したこの連載に、どうぞご注目ください。

『地域の誇り』復活推進会議



浦安市の人口を超える18万人が来場! 浦安に新しい文化をもたらしました。



金魚ねぶたに親子で参加。地域の垣根を越えた瞬間。



ウラヤスフェスティバルの浦田実行委員長の挨拶。



東京ディズニーリゾートからもキャラクターが参加。



大迫力の五所川原立俵武多も参加。青森県にも誇りを持ち帰りました。